

## 秋田地区果菜類・葉菜類実績検討会

1月21日(金)、秋田地区での果菜類の実績検討会が雄和支店で行われ、生産者らがカボチャ、トマト、ミニトマト、キュウリの令和3年度における生育経過や販売実績を確認しました。同日行われた栽培講習会では、カボチャの病害虫対策や各品目の品種を学び、生産者からは定植の適期や肥料の散布方法などの質問が上がりました。

25日(火)には、葉菜類の実績検討会と栽培講習会が同支店で開かれました。当JAとJA全農あきたがホウレンソウ、小松菜、キヤベツ、ブロッコリーの販売動向を報告したほか、参加者は品種ごとの作型やブロッコリーの防除について理解を深めました。

カボチャの病害虫防除を学ぶ  
参加者



## 直売所向け春夏播き野菜の栽培講習会

1月24日(月)、直売所向けの野菜の栽培講習会が追分生活センターと雄和支店で開かれ、生産者が直売所出荷に適した春夏播きの野菜の特性などを学びました。

春夏播き野菜の特性や  
栽培方法を学びました

講師に(株)高井南茄園の金野豊秋常務を迎えて、トマトやナス、トウモロコシなどの品種や栽培方法、品質向上に効果的な資材などが解説されました。金野常務は「同じ野菜が直売所に一気に並ぶと、競合してしまう。ずらした時期や長期間に出荷したり、色違いをセットにしたりするなど、工夫してみてほしい」と話し、作型や食味施肥の適期などを説明しました。種苗や生産資材の供給状況も話題になりました。



## NEWS & TOPICS

### 地場産品のマッチング商談会

2月10日(木)、「秋田・男鹿・潟上 食のマッチング商談会」がエリアなかいちにぎわい交流館AUで開かれました。3市や当JAによる秋田中央地域地場産品活用促進協議会の主催で、管内産の商品開発や製造を行う約20業者のブースが並びました。

スーパーや道の駅などで特産品や土産用商品を販売する企業や、食品の卸売業者が訪れ、製造企業の担当者と話し合い、気になる商品の写真を撮る姿などが見られました。

感染症の拡大防止のため、事前に予約した業者のみの入場に限られたほか、県外の業者とはリモートで商談が行われました。生産者と飲食店などの意見交換会も開かれました。



3市産の商品のブースが並ぶ会場

### テーブルマーク(株)向け契約栽培の情勢を報告

2月4日(金)、テーブルマーク株式会社向けに「秋田63号」「めんこいな」を契約栽培している生産者を対象に、情勢報告会が男鹿地区管農センターで行われました。JA全農あきたから米の需給の見通しや価格動向、同社からの要望などが生産者に伝えられました。

同社との契約栽培は令和4年で10年目となり、令和3年産米では男鹿地区管農センター管内から、「秋田63号」が171トン、「めんこいな」が282トン出荷されました。  
当JAの担当者は「実需者の要望に応えられるものを出荷できるように、土づくり肥料などで品質向上に励んでほしい」と呼び掛けました。



米の販売動向を確認する生産者